

連載⑪

内海善雄の
(ITU元事務総局長)

やぶ睨み
「ネット社会」論

ネット情報を頼りに、 吉野の花見に出かけた

ルしかなかった。ホテルが一室もないようでは、昼過ぎに現地到着の初日は、麓の金峯山

寺は大混雑が予想される。ならば、人があまり行かないと思われる奥千本あたりに一気に登って散策し、翌日、早朝に金峯山寺をお参りするほうが良策だと考えた。そこで、能率よく廻れるよう近鉄吉野線の時刻やケーブル、奥千本への臨時バスの時刻など綿密に調べ、自信をもって分刻みの計画を立てた。

さて、当日は天気も上々、途中の沿線は桜が満開で、車窓からの風景だけでも春を満喫でき、うきうきした気分です計画通り進んだ。

ところが、吉野に到着してみると、何と肝心の桜がほとんど開花してないではないか。それに人影も少ない。桜には時期が早すぎたことがすぐ分かった。急遽、少しは開花している下千本を先に散策し、翌日、奥の方へ回る行程に変更した。

観桜期の臨時バスで中腹まで行き、途中、観光案内にリストアップされている寺社に立ち寄りながら街道を下って、特別御開帳の金峯山寺蔵王権現を拝観した。写真で見ても馴染みのある蔵王権現も、足元で座して見上げるまことに迫力のあるお姿である。人も少な

く、実にゆっくり心ゆくまで拝観できたことはとてもラッキーであった。

さて、街道沿いには旅館や宿坊、民宿などが多数目についたが、どこも閑散としているではないか。ネットでは見つけることができなかつた施設だが、本当に満室だったのかと不思議である。しかし、たとえ空室を発見できたとしても、はたしてこの古臭い施設を選ぶことが正解だっただろうか。遠くでもリーズナブルで快適な近代的なホテルに宿泊して良かったと言いつつ聞かせながら、所々で咲いている下千本の桜を追いつつ吉野駅まで歩いて降りた。

帰宅してからネットを再調査してみると、一連の宿泊施設は、吉野山観光協会のホームページに掲載されており、そこから各施設のホームページにリンクが貼られていることが分かった。施設によっては空室状況が揭示され即座に予約できるものもあれば、単に希望日をメールで問い合わせ、返事を待つ施設などさまざままで、我々が一般に利用するホテル予約のポータルサイトは使っていないようである。適当な宿泊場所を発見できなかった理由が分かった。

吉野の花見に一度は行ってみたいとかねがね思っていたが、この度、意を決して実行した。

開花予想とホテル検索

何と言っても桜の開花時期と混雑状況を知ることが第一だ。この高度情報社会、必要な情報はすべてネットで得られる。検索でトップに出る「吉野町公式ホームページ」の開花予想では、都合がつく旅行予定日は、下千本が満開となっていた。ただ、予定日の十日も前の古い予想である。最新の予想はないものかと毎日チェックしたが、出発前日でも、ページは更新されなかった。

宿については、普段使用しているホテル予約のサイトで探したが、予定日に空室のある施設は、電車で一時間もかかる橿原市のホテ

山奥の西行庵と南朝の史跡

二日目は、朝一番の臨時バスに乗って一気に奥千本地区まで登り、さらに徒歩で山中の西行庵などを訪れ、山を下って中千本にある義経と静御前が身を隠し、また、後醍醐天皇の行宮でもあった吉水神社をゆっくり見学して、古を忍んだ。

西行庵は、まさにネット情報の通り、崖の細道をやつとの思いでたどらなければ行けない山中奥深きところにあり、とても人が住めるような場所ではなかった。西行は晩年の数

年間、ここに住んだというが、どうやって食料を確保したのだろうか。

しかし、道を進むと、近くは修験道の修行地大峯奥駈道の入り口であり、かつてはお堂がいくつか点存した場所であることが分かった。ならば、西行は俗世からは離れたが、決して人から離れていたわけではなかったのではないか。「ねがはくは花のしたにて 春死なんそのさざらぎの 望月の頃」を初めて習った時、なんとなく山里の桜をイメージし、人も通わぬ山奥とは思わなかった。現地を歩いてみて、当時は、やはりイメージに近かつたらしいと確信ができたものの、事前のネット調査では間違った印象を受けてしまった。少し体力と時間に余裕ができたので、谷を

越えて後醍醐天皇御陵のある如意輪寺まで足を延ばした。ネット情報では単に「所要時間25分」の記述しかなかったが、急峻な谷越えで、西行庵周辺からの山道を歩いてきた疲れた脚にはなかなかきつい場所であった。

ここで初めて他の人と一列状態で少し歩いたが、後ろから「インターネットの観光協会の情報は嘘やで。満開どころかまだ咲いてないわ」と男性が大声で電話をしている声が聞こえた。

帰宅して開花情報を再度チェックしたところ、下千本も満開は数日後であると更新されていた。

ところで、歴史で習った南北朝時代は、南

朝と北朝は対等に対峙していたとの印象を持っていたが、吉野に来て後醍醐天皇の勅願寺である小さい山寺の如意輪寺や吉水神社の狭い御座所を見ると、それは大きな間違いのようだ。吉野は、どう見ても敗走した天皇が隠れ住んだ場所、朝廷があつた場所とは思えない。

百聞は一見に如かず

「満開の桜と大混雑」、あるいは「咲き始めの桜と静寂の吉野山」のどちらを選択するかと聞かれれば、迷うことなく後者だ。結果としては満足できた旅であつたが、どんな情報にもアクセスできるはずのネットでも、やはり「百聞は一見に如かず」にはかなわない。

ならば、情報満載のホームページよりも、吉野山の街道を映すカメラの映像のほうが、混雑状況や開花状況は一目でよほど分かるだろう。そう思って検索してみると、何と大混雑している蔵王堂前や山を映しているライブカメラが、ちゃんとネットに存在するではないか。



宝塔院跡

このあたり一帯を宝塔院跡とよんでいます。かつてここに宝塔院という建物があつたのか定かではありません。明治初年の廃仏棄釈の嵐に見舞われるまでは、この付近に多宝塔、四方正面堂、安禅寺蔵王堂など大小の寺院が点在していたよつてここから西行庵へくたる途中にその屋敷跡を思わせる平坦なところが見られます。

いま蔵王堂の内陣に客仏としてまつられている身の丈四メートル余りの、木造蔵王権現立像(重文)。も安禅寺蔵王堂の本尊としてまつられていたものでした。ここから奥へ続く山道は大峯山への修験の道で、一キロほど行くと慶応元年(一八六五)建立の女人結界碑があり、またその後ろの山が吉野山で一番高く、万葉集にもつたわれた標高八五八メートルの青根が峰です。

吉野町観光課



内海善雄(うつみ よしお)

1942年香川県高松市生まれ。東京大学法学部卒。東芝を経て66年郵政省入省。電送局長、放送総局長、自由化担当。98年国際電気通信連合(ITU)事務総長に就任。電力・自動車関係企業役員、大学教員、各種団体の役員を歴任。IEEE名誉会員。